



学校だより  
【第5号】

令和8年7月17日(金)  
石巻市立石巻小学校

### 野球とサッカーに学ぶ、夏休みのヒント

一学期が締めくくりを迎え、いよいよ子供たちが楽しみにしている夏休みが始まります。保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に深い御理解と温かい御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、まとまった時間が取れる夏休みは、子供たちが大きく成長するチャンスであると同時に、学校とは異なる生活リズムになるのも事実です。

一学期の終わりに個人的（本当に個人的な選択です）に好きな「野球」と「サッカー」という二つのスポーツを例に挙げながら、子供たちが夏休みをどのように過ごしてほしいか、その願いをお伝えしたいと思います。

野球とサッカー。この二つのスポーツには、それぞれ独自の魅力があります。

野球は、投手が投げ、打者が打ち、守備陣がその打球を追うというように、一つ一つのプレーの間に「間」があるスポーツです。打席に立つとき、あるいは守備位置につくとき、プレーヤーはその瞬間、自分に課せられた役割を深く考えます。「ここでバットを振るべきか」「次の一球はどう来るか」。また、ピンチの場面では一呼吸置いて冷静さを取り戻す「静」の時間が、心を落ち着かせ、集中して臨む力を育んでくれます。

一方でサッカーは、時計を止めずに常にボールが動き続ける「動」のスポーツです。ワールドカップがそうでしたが、ピッチ上の選手たちは、刻一刻と変化する状況の中で、誰かが指示するのを待つのではなく、自分で見て、考え、瞬時に判断し続けなければなりません。「味方はどこにいるか」「どこにスペースがあるか」。予測不能な展開の中で、失敗を恐れず果敢にチャレンジし続ける姿勢が求められます。

野球の「自分の役割を突き詰める集中力」と、サッカーの「状況を判断し、仲間と連動して動く柔軟性」。この二つは、どちらも子供たちがこれからの人生を歩んでいく上で欠かせない力です。

今年の夏休み、以上のことを踏まえ、次のような姿を期待したいと思います。

休み中、少しだけテレビやゲームを止め、静かな時間を作る。読書に没頭する、自由研究で一つのテーマを深く調べる、あるいは日記を通して自分の心と対話する。野球選手が打席で集中を高めるように、自分のやりたいことにじっくりと向き合う「静」の時間は、自分の感性を豊かに磨いてくれます。

同時に、外の世界へ積極的に触れる「動」の時間も大切です。地域の活動に参加する、友達とルールを作って遊ぶ。サッカーのように、目の前の状況を判断しながら仲間と何かを成し遂げる経験は、教科書では学べない生きた学びです。自分で決めて動くという経験こそが、子供たちの自己肯定感を高めます。

夏休みという広いグラウンドで、子供たちがどのような物語を作り、たくさんの思い出を心に残してくれるかということを、今から楽しみにしています。

保護者の皆様には、どうか子供たちが「自分で考え、選び、動く」過程を見守っていただければと思います。私たち教職員も、夏休み明けに、一回り成長し、生き生きとした表情で登校する子供たちに会えることを心から楽しみにしています。

結びになりますが、一学期、学校へたくさんの御協力をいただきありがとうございました。